References

Fabbri, F. 1963. Caryologia **16**: 237–335. Hirabayashi, H. 1969. Journ. Jap. Bot. **44**: 113–119. Mitui, K. 1968. Sci. Rep. Tokyo Kyoiku Daigaku. Sec. B. 13, No. 203, 285–333. Tatuno, S. and H. Yoshida 1967. Bot. Mag. Tokyo. **80**: 130–138. Tatuno, S. and M. Takei 1969. ibid. **82**: 121–129.

* * * *

分布と倍数性との関連性については，高等植物でかなり報告されている。今回この関連性をシダ類で調べるために山地性のシダ 28 種の染色体数を観察した。これらのうちトヨグチウラボシ，ミヤマシダ，ナヨシダ等の分布には倍数性が強く働いているように思われる。けれども山地性のシダ全体では倍数体の割合はあまり高くない。すなわち現在までに日本ではおよそ 300 種のシダの染色体数が観察されている。これらのうちで倍数体は約 51% である。これに対して約 50 種の山地性のシダのうち，20 種 (40%) が倍数体である。特にオシダ属，メシダ属，カナワラビ属では山岳地域に倍数体が少ない。

○高等植物分布資料 (70) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (70)

○キダチニンドウ *Lonicera hypoglauca* Miq. 邦内では四国，九州に主産するが，本州では稀種に属し，従来は静岡県と広島県とに報告されていたに過ぎない。東亜の暖一亜熱帯特産種と言える本種が島根県西部，即ち山陰地方にも産することが分ったので報告する。浜田市国府の多陀寺 (Aug. 13, 1969. 宮本 巌) が其の採集地である。標本は若い茎葉であるが，鋭尖の薄い葉，全体に開出毛を布くことで本種と同定した。

○オオイヌノハナヒゲ *Rhynchospora Fauriae* Franch. 本種の分布西限は九州であるが，本州中部以北の多雪地帯が主産である。これまで岡山県北部以西の本州に未報告であったが，島根県邑智郡瑞穂町の荷ノ峠 (Aug. 3, 1968. 宮本 巌) に産するのを知った。刺針は殆ど平滑で下半部がわずかに逆粗渋し，果体の 3 倍長あるのでイヌノハナヒゲではない。

○エゾノミクリゼキショウ *Juncus Mertensianus* Bong. 太平洋をはさんで東亜と北米西部 (カリフォルニア州南部まで南下) とに分布している湿原生種であり，日本では北海道以南に未報告であった。本種が岩手県和賀・胆沢両郡境の焼石岳に産する。邦内での南限であり，盛岡在住の安本広静氏が 1969 年 8 月 4 日に採集された。

(東京都立大学・牧野標本館 水島正美)